

生食プレフィルドシリンジの活用について

DIニュース 2016年9月号-1
薬剤部 薬品情報管理室

生食プレフィルドシリンジ製剤使用のメリット

- ✓ 薬剤調製の手順・作業を減らすことで、調製時に汚染するリスクを軽減
- ✓ 薬剤調製作業の低減により、救急時にも迅速な対応が可能



プレフィルド製剤のメリットは分かるけど、値段が高いから病院の経営的にはマイナスなのでは？



大塚生食注20mL
薬価：61円



生食注シリンジ「テルモ」10mL
薬価：104円



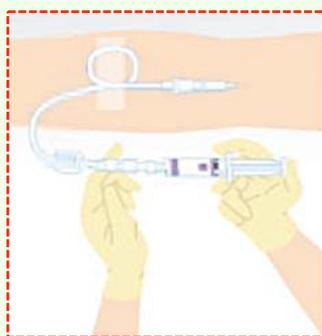
オーツカ生食注シリンジ20mL
薬価：125円

通常のシリンジは医療材料であるため、使ったシリンジは全て病院のコストとなってしまいますが、プレフィルドシリンジはシリンジ代も含まれた薬価で保険請求できるため、一概に病院のコストが上昇するわけではありません。



生食プレフィルドシリンジの活用法

1. ルートフラッシュによる配合変化の回避、薬剤の後押し



例) オメプラゾールの配合変化回避に利用

- ① メインルートを止める
- ② 側管から生食注シリンジ「テルモ」10mLでフラッシュ
- ③ 側管からオメプラゾール注の投与
- ④ 側管から生食注シリンジ「テルモ」10mLでフラッシュ
- ⑤ メインルート再開

※その他にも抗菌薬など配合変化を起こしやすい薬剤の前後フラッシュに利用

2. 注射剤の溶解・希釈

例) セファゾリンの溶解に利用

- ① オーツカ生食注20mLシリンジに針を取り付ける
- ② バイアルに刺し、セファゾリンを溶解させる
- ③ 溶解液をシリンジに吸い取る
- ④ シリンジポンプにセットする

プレフィルドシリンジはシリンジポンプにもセット出来ます！



3. 創傷部位、粘膜、医療器具の洗浄等にも



創傷部位



粘膜



医療器具